

# ながぬま

迎春





# 新年のご挨拶



代表理事組合長 柴田 佳夫

新年あけましておめでとうございます。組合員皆さまにおかれましては、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、日頃より農協事業に対しまして、特段のご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。昨年は長らく続いたコロナ禍も2類から5類に移行し、日常が行動制限のない通常の社会活動に戻ってきたところであります。

しかしながら、近年は地球温暖化の影響を受け、日本においても猛暑、台風、集中豪雨などの気象災害が頻発し、経済活動や生活インフラに大きな打撃を与えています。特に今年の7月・8月の長沼町の気温は、30度を超える真夏日が26日間という記録的な高温が観測され、農業生産に大きな影響をもたらすこととなりました。このような状況の中、令和5年度の営農実績では、春先の積雪が少なく、融雪期は平年より11日早まり、春先から順調に農作業は進められました。その後、6月・7月には若干降水量の

少ない時期もありましたが、8月上旬までは気温が高く日照も多く、全ての作物が順調に生育、推移し、出来秋の稔を大きく期待したところでありました。その後、転じて8月中旬以降は猛暑、降雨の日が多く、不安定な天候の中で収穫作業が行われました。

特に、水稲では乳白粒の発生、大豆では早生系品種を中心に腐敗粒の発生による品質低下、青果物等については病害の発生・前進出荷による収量・品質低下の被害を受けました。

水稲の作況指数「南空知103」（北海道104）で「やや良」となり、米の館の受入は計画以上の集荷を見たところです。しかし、品質面においてはタンパク値も全般に高く、「ゆめぴりか」の基準品米（低タンパク7.4以下）は25.1%となる状況であります。米の需給環境はコロナ禍により衰退していた外食需要が回復傾向にあるほか、主食用米から転作が進んだことで需給が引き締まり、民間在庫も減少し価格も上昇してきております。

また、10月に開催されました第8回空知地区「ゆめぴりか」コンテストでは、JAながめまが2年連続のグランプリ、通算で3度獲得したことは、誠に栄誉なことであり、長沼産ゆめぴりかの品質が高いレベルで安定している事が、厳しい気候条件の中にあっても証明されたところであり、生産者皆様の良食味米生産に対するご努力に敬意と感謝を表すところであります。

小麦は施設受入計画対比108.7%となり、秋まき小麦の粗原料反収で10.4俵、製品反収で9.4俵となりました。成熟期が早まり細麦傾向ではありましたが、稈長、穂長、一穂粒数が平年並みで、穂数が多かったことから計画以上の収穫が達成されました。

大豆も施設受入計画対比123%で、4936トンの受入れをいたしました。播種後、順調に生育し出来秋を期待しておりましたが、8月・9月の高温と降雨の影響により、収量は確保したものの、しわ・腐敗粒が発生し自主検査では品位Ⅱ（3等）特定加工）を中心とした集荷状況であります。

野菜については、8月以降の高温と降雨の影響を受け、多くの品目が生理障害・病害虫の多発から品質低下を招き、収量が減少し販売計画を下回る取扱いとなりました。一方で国内の生産量の減少、為替相場に起因する輸入青果物の減少を背景に全国的な品薄状況から、単価については高単価で推移した事により販売額の減少は限定的となりました。

総括すると、農畜産物全体の販売額については、天候の影響により取り扱い減少が心配されましたが、計画を上回る約90億円を見込んでお

ります。これもひとえに組合員皆様の農協事業への結集が導いた賜物であり、ここに深く感謝を申し上げます。

一方、農業を取り巻く環境は国際競争の長期化や円安により、肥料・飼料・燃料など営農に不可欠な農業生産資材が高騰し、その後も高止まりが続いております。そのような中、国は「食料・農業・農村基本法」の改正を25年ぶりに進めています。JAグループにおいても改めて食や地域をどうのように持続可能なものにしていくのか議論を進め、「食料安全保障の強化」、「再生産に配慮した適正な価格形成の仕組みの具体化」、「農業の持続的な発展」の3つを大きな柱として、その実現に向け引き続き組織を上げ尽力してまいります。

協同組合の強みは、組織者と利用者、そして運営者が同一であるという三位一体です。また、農協は、「組合員の組織」であり、自らが出資をし、自らが事業を利用することで総合農協として、組合員個々の経営に寄与するものであります。あわせて地域社会に貢献することを目的とする組織であります。この理念の実現に向けて組合員皆さまと役員・職員が共有しながら長沼農業の価値を高め魅力あるものにし、組合員の農業所得の増大に寄与する組織であり続けるために、組合員との対話を通じて変化を共有し関係機関と連携を深め事業推進に取組んでまいりますので引き続きご指導ご協力の程宜しくお願いいたします。

結びに、本年が災害のない豊かで実り多き明るい年となること、組合員皆さまのご健勝をご祈念申し上げます。

# 賀正

二〇二四年元旦

ながめま農業協同組合

- 代表理事組合長 柴田 佳夫
- 専務理事 服部 正幸
- 常務理事 岩崎 徹
- 総務・経済対策委員長 健名 和哉
- 営農委員長 福島 幸二
- 総務・経済対策副委員長 越路 昌隆
- 営農副委員長 石尾 大介
- 理事 大橋 敏央
- 理事 鳥井 昌幸
- 理事 十河 義満
- 理事 大崎 貴幸
- 理事 吉田 満
- 理事 東山 哲智

- 代表 三好 忠和
- 常勤 松本 豊
- 監事 村上 芳宏
- 監事 中原 久勝
- 管理部長 大和田 健
- 金融部長 山村 範人
- 営農部長 波川 浩己
- 販売部長 高嶋 良幸
- 資材部長 富澤 和幸
- 管理部次長 仁和 貴也
- 金融部次長 大屋 寛
- 経営相談部次長 氏家 真吾
- 営農部次長 今村 大樹
- 販売部次長 山本 大介
- 営農部次長 村井 忠夫
- 営農部次長 阿部 秀幸
- 外職員 一同



# 令和6年の年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会

代表理事会長

樽井

功

新年あけましておめでとうございます。組合員の皆様におかれましては、日々営農に更に邁進されておられること存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていること対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げます。

昨年の北海道農業については、春先は天候に恵まれ地域によって降雪被害や竜巻の被害が見られたものの、概ね、平年並みに推移しておりました。しかしながら夏場は猛暑による記録的な高温多湿の影響を大きく受け、各作物の生育自体は、全般的に平年よりも早く進んできましたが、各作物等の収量および品質の低下が顕著となる残念な年でした。

新型コロナウイルス感染症の位置付けは昨年5月より5類に移行し、コロナ禍以前の日常を取り戻しつつありますが、各農畜産物の消費は依然として低迷しており、さらに、国際紛争や

急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが、農業経営に与える影響は甚大なものとなっております。

さらにこれらの影響を受け、世界の食料需給事情が一変しました。輸出制限を行い、自国の食料を確保する各国の動きが活発化し、世界的な人口増加による食料不足問題など食料争奪合戦がすでに始まっています。我が国の食料を安定的にどう確保するのか。今こそ大いに食料安全保障の国民的議論が必要となっております。

現在、日本の食料自給率は38%しかありません。これは、世界の先進国の中で最低の水準であり、6割以上の食べ物を輸入に頼っているのが日本の現状です。

食料安全保障の強化が国家の喫緊の課題であることから、我が国の食料供給基地である北海道農業が果たしてきた役割、そして北海道農業への期待は、今後ますます大きくなるものと考えております。

J Aグループ北海道は、日本の食料基地であるという使命感に立ち、食料の安定生産・安定供給と農畜産物の需要拡大を両輪として引き続き取り組むことが重要であり、国民の命の源である食を守り続けるにも、まさに新しい農業を築き、未来の世代へ繋いでいく必要があります。行政や全国連とも連携し、しっかりとその対応を図って参ります。

今年は、第31回J A北海道大会が開催されます。また、第30回J A北海道大会の実践最終年度であり、決議された将来ビジョンである、「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』の達成」の成果をしつかりと検証し、次のJ A北海道大会に繋げていく必要があります。

このような状況であるからこそ、協同組合連動の原点に立ち返り、相互扶助の精神に基づき互いに協力し、力を合わせこの難局を乗り越えることが重要となります。

消費者の皆様に対しては、今以上に農業・食に対する理解を求めため、J Aグループ北海道統一の情報発信のフレーズである「アグリアクション北海道」を浸透させ、より効果的な情報発信を行い、J Aグループが提唱する「国消国産」の認知を広めて参りましょう。

結びになりますが、本年は辰年です。辰年は陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛になって大きく成長し、形がととのう年だといわれています。

この謂われにあやかり、本年が豊穡の年となること、皆様のご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶いたします。

# 新年のご挨拶



空知農業改良普及センター

空知南西部支所

支所長 山本正浩

新年明けましておめでとうございます。年頭に当たり、ながめま農業協同組合の組合員とご家族のみなさまに謹んで新年のお慶びを申し上げます。

また、平素より農業改良普及センターの活動に対し、ご理解とご協力いただいておりますことに、感謝を申し上げます。

私たちの生活に大きな影響を及ぼしてきた新型コロナウイルス感染症が、令和5年5月には5類への移行という大きな節目を迎えました。5類移行に伴い、生産活動も活発化しつつあることに喜びを感じております。

せっかくの機会をいただきましたので、令和5年の振り返りと令和6年に向けた取組について、少しご説明させていただきます。昨年は積雪が少なかったことから融雪期が平

年より11日早く、その後は日照時間も多く、気温も高い日が続き、春作業は概ね順調に進みました。しかし、6月中旬の少雨と以降の記録的な高温、秋の集中的な多雨などにより、作物の生育が過度に進んだり、障害・病害が生じました。水稲では倒伏や高タンパク化、白未熟粒の発生、秋まき小麦は容積重の低下、大豆はしわ粒や裂皮粒、腐敗粒の発生、たまねぎは日やけど症状や黒カビの発生、ブロッコリーは、花蕾形成不良、トマトは着色不良など、広範囲にわたる影響が生じました。そのなかでも台風などの災害がなかったことが不幸中の幸いだったと感じております。さらに水田活用の直接支払交付金の要件が厳格化され、令和5年は畑として利用したほ場への入水により、様々な準備やご苦労があったことと思います。

作柄については、水稲は作況指数が1.03(南空知)となりました。全道的には白未熟粒の発生や高タンパク化により厳しい状況にある中で、空知地区「ゆめぴりか」コンテストでJ Aながめま産が2年連続グランプリを獲得され、良食味米産地として揺るがない評価を得たものと考えます。

麦類については病害虫防除も適切に行われ、概ね平年並の収量・品質を得ることができました。大豆については、しわ粒、裂皮粒、腐敗粒によりそのほとんどが特定加工用になりました。栽培方法や品種の選定には本年の教訓を加味した検討が必須と考えます。

園芸作物についてはブロッコリー、トマト、たまねぎともに令和4年度の販売額を下回ったものの、影響を最小限にとどめべく健闘され

ました。これらの結果、J Aながめま全体としては令和4年の販売額を超える結果を残したことは地域一丸で取り組んできた結果であると高く評価されるべきと考えます。これは厳しい気象条件下でも、日々のたゆまぬ努力や基本技術の励行と柔軟な対応によってもたらされた結果であり、生産者やながめま農業協同組合役職員のみならず、関係者各位の尽力に敬意を申し上げます。

さて、令和3年も高温により様々な被害が生じました。このときも「過去に経験のない」という扱いをしていたと思いますが、令和5年は同レベルの状況でした。ここ10年を振り返ってもこの「異常」ともいえる状況が頻発しているのはみなさまも肌を感じていることと思います。

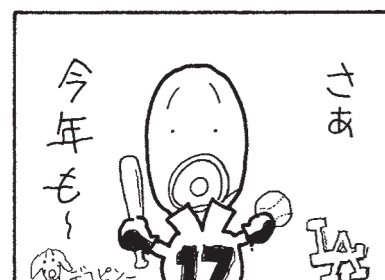
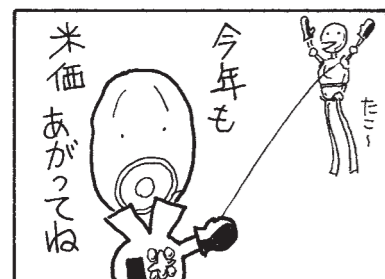
さらに、資材費の高騰は国際情勢の不安ばかりが招いているわけではありません。また日本の人口は減少の一途であり、労働力不足解消の糸口も見えない状況です。資材費の高騰については現在の生産体系など見直し、ムダやムラを最小限にしておくことや、限りある資源の地域内循環を積極的に取り入れていくことが重要です。また、労働力の確保は個人的に限界があり、省力化技術の導入は急務といえます。

普及センターとしてもみなさまと一緒に考え、地域の活力向上に繋がる支援を続けてまいります。今後もお気軽に相談ください。

新型コロナウイルス感染症に加えインフルエンザウイルスにも警戒が必要な状況は依然として続きますが、みなさまのご健勝で営農し、豊穡の秋を迎えられますことをご祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。



# お笑いマンガ



## 『営農計画樹立』は 家族ぐるみで!

本年も営農計画を樹立する時期となりました。この時期にじっくりと営農計画に取組み基本方針を立てることが最も重要であり、また、各作物の生産性向上や気象条件などによる危険分散することも考慮し、作付品目などを計画する必要があります。

今年度の営農計画書作成にあたっては、前年度の実績を踏まえ、肥料・農薬等の生産資材の効率的利用、コスト低減と経費の節減に努め家族ぐるみで実行可能な計画を樹立し、経営の発展に努めていただきたいと思います。

なお、営農計画書の提出期限は2月9日までとなっておりますので、期日を厳守し提出していただきますようお願い申し上げます。

お問い合わせ  
経営相談部 経営相談課 TEL 88 - 2229

## 地域農業の担い手、JA青年組織盟友を応援する雑誌



年2回の別冊付録は一つのテーマを掘り下げ、わかりやすく解説

お問い合わせ 営農企画課 TEL 88-2232

## 「地区懇談会」を開催

12月5日から7日の3日間、地区懇談会が開催されました。

農協からは、令和6年度事業計画、農業所得増大の取組みなどを説明させていただき、参加された方々から農協事業へのご質問やご意見をいただきました。

今後とも組合員皆様の「農業所得の向上」や「担い手の育成」に向け、農協経営の健全性や組合員、地域の方々に安心してご利用いただける組合づくりに取組んでまいります。



## 女性部部会活動報告

### ◆フレッシュミズ秋季研修旅行

11月28日〜29日フレッシュミズ部会は秋季研修旅行を旭川、深川で行いました。初日は砂川の化粧品製造会社SHIRO（シロ）を見学その後旭川で昼食を取り、有



名なお菓子「蔵なま」のショップや高砂酒造の蔵を見学しました。翌日は深川「まあぶ工房」で花の模様ができる「細工太巻き寿司」に挑戦し、のり巻きを切る時きれいなバラの模様ができ、家族のお土産に持ち帰りました。1泊2日の中で見学や体験など盛りだくさんでも良い時間を過ごすごとができました。



### ◆空知管内

### JA女性部研修大会・家の光大会

12月5日、部員13名が、深川市で開催の空知管内JA女性研修大会に参加しました。大会では、食品ロスをテーマにした講話や睡眠セミナーなどの研修が行われました。またフレッシュミズの作文発表でJAながめフレッシュミズが当番になり27区鈴木圭子さんが「フレッシュミズとつながった私」をテーマに発表を行いました。落ち着いた話し方でとてもいい発表だったと参加者の方から高評価をいただきました。鈴木さんは1月の全道大会でも作文発表を行います。



## 理事会報告 - 第12回 -

《令和5年12月15日開催》

### [議案]

- 第1号 第3四半期自治監査講評
- 第2号 組合と理事の契約承認について
- 第3号 令和6年度営農計画に係る農産物価格の設定について
- 第4号 事業推進員会議の開催について
- 第5号 令和5年度決算見込みについて(11月末現在)
- 第6号 固定資産の取得について
- 第7号 総代の改選について
- 第8号 組合員の出資持分譲渡について
- 第9号 令和6年度内部監査計画の策定について
- 第10号 年末賞与の支給について

### [報告事項]

1. 会議行事報告について
2. 組合員の加入及び脱退の状況について
3. その他

以上、すべての議案について審議し  
原案通り承認されました。

**食農のページがもっと楽しく**

食農教育の知識がいっぱいつまっています。

**購読のお申し込みはJAへ**



THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

**日本農業新聞**

今月の組合員数 (前月比)

組合員 1,525名(-1)

正組合員 790名(-1)

准組合員 735名(±0)

正組合員戸数 606戸(-2)

## 農協の動き 11/23~12/15

### 11月

- 23日 新嘗祭 於 長沼神社
- 29日 粃バラ施設運営協議会 於 農協
- 29日 事業推進員会議 於 農協

### 12月

- 5~7日 地区懇談会 於 行政区会館・農協
- 11~13日 道肥料高騰対策申請手続き 於 農協
- 11~13日 南々空知地区米生産流通協議会役員研修 於 沖縄県
- 12日 空知管内常参総会議 於 空知農業会館
- 14日 空知総合振興局事例発表(N-STARプロジェクト) 於 岩見沢市
- 14日 歳末警戒パトロール 於 町内
- 15日 女性部生活懇談会 於 農協
- 15日 監事会 於 農協
- 15日 総務経済対策委員会 於 農協
- 15日 理事会 於 農協

# Aコープながぬま店

## 2024

# 初売りの



# 1月4日<sup>木</sup>

## あさ10時から



JA だより **ながぬま**

2024. 1月号 No. 359

〒069-1393 夕張郡長沼町銀座北1丁目5番19号  
発行/ながぬま農業協同組合 営農部営農企画課  
TEL/0123-88-2226 FAX/0123-88-4113  
URL/http://www.ja-naganuma.or.jp